

致返上申候事。

一、相役之内替々御郡中相廻、耕作方無滞様申付候。且又御郡々に御扶持人并十村共毎月日を極相集り、組々相滞儀相談仕、輕儀は埒明申候。依之十村共相集所々、御算用者高能少兵衛・増田半助毎月遣之、十村共申付儀承届、私共并御算用場々申聞候事。

一、百姓死去跡、せがれ幼少に而開作難仕御座候得ば、死申百姓女に入掣申付候敷、或は成人之娘御座候得者掣を取申敷、或は不適百姓後見人相立、何とぞ死去人之妻子養育仕、其子及廿歳候は、高相渡候様申付候。自然親類之者無御座候得ば、脇より入百姓申付候事。

一、御郡中水損・旱損・風損等有之、立毛定免に不應村々見立之斷申候刻、其郡之御扶持人申付吟味爲致、其上於御算用場私共僉議仕、見立に可罷成村々撰出、村數を極、他郡之御扶持人三人宛召連、手分仕罷越致見分、夫々御用捨免申渡候事。

一、毎歳收納方皆濟吟味仕、御代官并御家中侍分皆濟切手見届、村々高・物成引合、十村一組切吟味仕申候事。

一、御郡中田島新開之儀、毎歳開所吟味仕、本田に障無之分新田に申付候事。

一、毎月隔日に御算用場々罷出、諸事御用方相しらべ、津田宇右衛門に相談仕、夫々裁許仕候。御用多時分は毎日相談申候事。

一、御收納方諸代官、御塩方、小物成請拂、并諸方に而金銀諸色請拂仕人々遂御勘定申刻、御算用者夫々吟味仕、算用仕立濟、證文相調、其上私共承届、津田宇右衛門に相談、場印を取、渡之申候事。

一、御下行渡り方、御知行所附割符、大坂・江戸御廻米、差引、御代官割、并御郡中檢地等之儀僉議仕、津田宇右衛門に相談仕、夫々相極申候事。

一、江戸御上下之刻、新川郡之内御旅屋拵、越後山之下波除、青海川・姫川々越、人足召連、相役人之内替々罷越申候事。

一、金澤廻御鷹野に御出被遊候刻、御せこ人足并御供船申付、賃銀被下に付請取相渡申候事。

一、往還道筋損申刻、少々之儀は十村共々申付、百姓修理

仕候。及大損申候得ば、御郡奉行申談、年寄中々相達、御納戸銀を以修理有之候。且又往還道筋并宿方川に而崩申刻は、御郡奉行・私共より御普請會所々達申、役銀を以修理有之候事。

一、大坂御屋敷に私共代々罷越、御米拂其外品々御用相勤申候事。

右私共相勤申御用品々如此御座候。以上。

元祿三年十一月廿八日

脇田 知右衛門

中村 四兵衛

堀 孫左衛門

鶴 見三丞

中村 助左衛門

大坂に罷在申候

中村 孫兵衛

左之兩人帳面同事。但、末に外々條有之、如左。

一、毎年御勝手方惣圖り御隠密方御用相勤申候事。

一、御土藏金銀御算用相遂申候刻、平岡五左衛門相談仕、

御算用相極、入立御奉行・私共連判を以濟證文調上之、御印被成下、則大銀御奉行・諸方御銀奉行に相渡り申候事。
一、御在府之年者寄合所々相詰申候事。
一、御勝手方御簡略之儀、津田宇右衛門・小寺平左衛門、并上勘左衛門被仰付、御用品々私共下しらべ仕、夫々三人に致相談相勤申候事。

元祿三年十一月廿八日

園田 左十郎

毛利 又太夫

二七 能登四郡幕府領之事

能州御預所村附

鹿 嶋 郡

川 田 村

土方領入合

下 村

八 幡 村

石 崎 村

祖 濱 村

土方領入合

熊 淵 村

大 野 木 村